

The 33rd International Geographical Congress (第33回国際地理学会議)

参加報告

2016年9月30日

広域科学専攻(広域システム科学系) 人文地理学教室

博士後期課程1年 藤井 毅彦(松原研究室)

「博士課程学生のための国際研究集会渡航助成(平成28年度第1回)」のご支援を頂きまして、2016年8月21日から25日まで、中華人民共和国北京市のChina National Convention Centerで開催された「The 33rd International Geographical Congress(第33回国際地理学会議)」に参加しました。この会議は、International Geographical Union(国際地理学連合)が原則として隔年で開催する国際学会であり、地理学の分野では、最も権威のある会議のひとつです。ちなみに、2013年に京都で開催された本会議のRegional Conferenceでは、秋篠宮殿下ご夫妻に開会式に出席頂き、殿下からご祝辞を頂いております。

今回、私は、Dynamics of Economic Spacesという経済地理学に関するセッションで、「Dynamic Diffusion of Technological Knowledge in Agri-industrial Clusters: Evidence from Japan's Wine Industry」という題で口頭発表を行いました。発表内容は、日本のワイン産業の中心である山梨県甲州市勝沼地域において、ブドウ栽培、および、ワイン醸造技術に関して、地域内で知識がどのように伝播していったかに関する調査・考察結果です。発表後、質疑応答を複数頂きましたが、その中で、オーディエンスの一人(中国河南省・河南大学研究員)から、中国のワイン産業において、同様の研究を行っているので非常に参考になった言及頂きました。これは、国際学会で発表したからこそできた交流やネットワークであり、今回の助成ご支援の有難みを改めて感じた次第です。博士課程では研究フィールドをニュージーランドに移していることもあり、このような国際学会に引き続き参加し、人的ネットワークと国際的知見の強化に引き続き取り組む所存です。

最後に、PM2.0ですっかり悪評高くなった北京の大気汚染ですが、開催期間中はさわやかな青空と大気を感じる日が多かったです。2006~2008年に地理・環境関連企業にて北京に勤務していたこともあり、当時の同僚に聞いたところ、今年に入り、北京市が相当強制的に工場を市外の河北省に移転させた結果、目に見えて改善したとのことでした。但し、河北省を含めた北京広域エリア全体での汚染源の絶対量は同じなので、今後はどうなるかわからないとのことでした。



写真 会議会場